

本棚 ぶらり

テーマ 防災



『「もしも」に備える食 災害時でも、いつもの食事を』

いしかわしんいち いまいずみ こ
石川伸一・今泉マユ子／著
清流出版 2015年



「被災時の食には、知恵があふれている。限られた条件下で食べものを作るとき、創意工夫が生まれる」
災害時の食と聞いて、乾パンやアルファ米などの非常食を思い浮かべる人は多いだろう。今は非常食でもおいしいものが多く、ほとんど調理不要なので便利だ。しかし、本書では、災害時でも、非常食だけでなく「いつもの食事」を食べることの重要性を説く。

本書は「おいしいものでも三日続くと飽きてしまう」、「食べ慣れたもの、温かいものは、ほっとする」という東日本大震災での教訓を踏まえ書かれている。災害時には、日常的にストックしているような乾物や粉ものが活躍すること。水や火力の少ない状況でも、手軽に調理できるレシピが紹介されているので、災害時の調理の練習に最適の一冊である。

『関東大震災を歩く 現代に生きる災害の記憶』

たけむらまさゆき
武村雅之／著
吉川弘文館 2012年



本書の最初に紹介されるのは、関東大震災で避難してきた約3万8千人が火災旋風によって亡くなった被服廠跡（現在の東京都墨田区にあった陸軍の軍服などを製造する工場跡）である。現在この場所は横網町公園等となっているが、横網町公園内には東京都慰霊堂や朝鮮人犠牲者追悼碑がある。本書は、こうした都内に現存する慰霊碑や記念物を実際に歩いて調査した記録である。

震災の際、現在の埼玉県出身である渋沢栄一は自宅を食料配給本部として解放するなど、震災当初から積極的に復興に関わっていた。また、復興の際の鉄筋コンクリート造りの耐震建築（築地本願寺や東京都慰霊堂）を設計した伊東忠太などの専門家や、一般の多くの市民も復興を支えた。本書は単なる災害の跡の記録にとどまらない。人々の復興の足跡の記録でもある。

『おしゃれ防災アイデア帖』

Misa / 著
山と溪谷社 2021年



2018年の大阪府北部地震をきっかけに、著者の防災への意識は変わった。本書はそれまで防災に興味のなかった著者でも続けることができた、暮らしを楽しみながら、もしもに備えるアイデアを紹介している。その内容は、整理整頓アドバイザーの著者が考える、日々の生活に溶け込むような防災用品の整理術や、防災を無理なく続けていくための考え方をもとにしたものである。また、巻末には、紹介しているアイデアの目次があり、読みたいものにすぐに辿り着けるようになっている。

防災にあまり関心がない人や興味はあるけれど何から始めたらいいかわからない人、続ける自信がない人は、一度読んでみてはいかがだろうか。

『緊急防災ハンドブック』

にほんのうりつきょうかい
日本能率協会
マネジメントセンター／編
ししょうぼうきょく
さいたま市消防局／協力
かしわばらしょうてん
柏原昇店／イラスト
日本能率協会マネジメントセンター 2019年



本書は、災害において「絶対に正しい」といえることはないかもしれないが、災害に備え、知識を得ることで、被害を抑えられるはずという考えから制作された。地震が起きた時にキッチンにいたらどうすればいいのか、川にいる時に突然集中豪雨に見舞われたらどうすればいいのか、そんなもしもの時の対処法を状況別に紹介している。さらには、被災後の避難生活についても紹介している。

また、制作にはさいたま市消防局が協力している。特に第6章「消防局の活動」では、さいたま市消防局の日々の活動や現役消防士へのインタビュー、さいたま市防災センターでの災害シミュレーション体験を紹介しており、さいたま市になじみ深い内容になっている。



ちょこっとゆかり文学クイズ

Q: 関東大震災が起こり、両親とともに浅草の家から浦和に避難した、戦後の日本を代表する時代小説・歴史小説作家は誰でしょう？